

教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	國學院大學	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	高度博物館学教育プログラム －体系的な知識と技能を備えた博物館学研究者と上級学芸員の養成－		
主たる研究科・専攻名	文学研究科・史学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者)青木 豊		

[教育プログラムの概要]

【目的・必要性】

本プログラムは博物館学に関する大学教育に携わることができる研究教育者ならびに高度な博物館学の知識・技能を有する上級学芸員の養成を目的とする。現在、我が国の博物館は国民の多様なニーズのもとで、その機能の抜本的変転が急務となっている。文部科学省は平成21年2月『学芸員養成の充実方策について』で、「将来的には大学院における教育の充実を図ることや、上級資格をはじめとする高度な人材の認定も視野に入れた検討も必要である。」と明言しているように、大学における博物館学教育の体系化によって個別分野での専門家ではなく専門知識を有した上で学術成果を活用できる知識と技術を有する人材の、高度な教育プログラムが必要とされている。本プログラムはその要請に応えるものである。

【背景・実績】

本学は建学の精神であり我が国の基層文化でもある神道に基づいた教育・研究を実践することにより、文学、歴史学、民俗学、神道学等の人文科学分野において300名を超える博士を輩出し、数多くの大学教員、神職、教員等を送り出し、我が国の教育・文化に大きな貢献を果たしてきた。一方、博物館学教育・研究においては、昭和33年開設の学部の博物館学課程では6,500名以上が学芸員資格を取得し、博物館学芸員の数は全国でもトップレベルにある。平成9年度より、全国に先駆けて文学研究科史学専攻考古学コースの中に博物館学科目郡を設置し、これに関する課程博士（歴史学）を出している。さらに**全国大学博物館学講座協議会委員長大学**としても博物館学を牽引している。本プログラムはこれら本学の実績を最大限に生かし、将来にわたってそれを強固にすることを可能とする高度教育を目指す。

【履修課程】

本プログラムの特質は、平成21年度後期より**文学研究科史学専攻内に新設される博物館学コース**を中核に、文学研究科各専攻が培ってきた高度で専門的な人文科学の教育・研究を組み合わせることによって、専門性・学際性を兼備した博物館学研究者・学芸員を養成することにある。具体的教育方法としては、従来の博物館学専門科目群を拡充・体系化し、基礎・応用・展開に段階付け、考古学・歴史学・民俗学・神道学・宗教学・美学・美術史等の専門選択科目を履修させ、幅広い基礎知識を涵養する。また、必要不可欠な実践的技能の習得についても、國學院大學研究開発推進機構学術資料館などにおいて、**通年の恒常的なインターンシップ**を同機構専任教員の指導のもとに**RA・TAが参画して実施することにより**、収集から整理・保存・展示に至る**技能の習熟**に努める。加えて、本プログラムを円滑に実施するため、博物館学研究の情報拠点的役割を果たす**博物館学教育研究情報センター**を研究開発推進機構内に新設し、同センターを中心にして海外博物館との共同調査・インターンシップ(中国西安于右任故居紀念館・韓国釜山市立博物館等)、本学と関わりの深い神社博物館における研究・実習、**学校と連携し小学校などに付設された、博物館(資料室)で地域文化資源の「保存と活用・展示」**を実践する専門・特殊実習授業等を展開する。その他、**学社(博物館関連企業)連携、博学連携(東京国立博物館でのインターンシップ)、他大学大学院との連携**を行い、それぞれの場への参加により学芸員としてのコーディネート能力及び実務経験を高める。これらの体系的かつ組織的なプログラムを実施することにより、修士・博士学位授与の質・量の拡充を図るとともに、本学独自の資格として、修士には「**國學院ミュージアム・アドミニストレーター**」、後期課程の単位取得者には「**國學院ミュージアム・キュレーター**」をそれぞれ授与する。

【将来性・社会への波及効果】

本プログラムは、将来必要とされる上級学芸員を養成する大学院での教育の**モデルケース**となることをも視野に入れており、実現されれば我が国の博物館学教育・学芸員養成に大きく資することとなる。また、「**國學院ミュージアム・アドミニストレーター**」及び「**國學院ミュージアム・キュレーター**」資格取得者は博物館学の研究者のみならず、地域博物館、神社博物館や文書館、美術館などの上級学芸員として活躍することも期待でき、それによって研究科および各専攻の人材養成の目的をより一層実現することが可能となる。

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「博物館学大学教員と上級学芸員の養成」という社会の要請に応える人材養成目的が明確であり、それに沿った体系的な教育課程が編成されている点は高く評価できる。特に、ダブルメジャーのシステムを取り入れ、歴史学・考古学・民俗学のリソースを充分活用するなどの工夫がなされ、博物館学の進展と高度な知識を幅広く身につけた学芸員を養成する試みとして注目に値する。

教育プログラムとしては、博物館等におけるインターンシップをカリキュラムに組み込んでいる点は、高度な博物館学を実践する取組として優れている。また、学内に加え周辺地域や東アジア地域の博物館施設を利用できる環境や、これを支える教員組織など、目的達成のための教育基盤が整備されており、その実現性についても評価できる。しかしながら、国際的教育環境の整備の観点から、欧米等の博物館との連携の充実が望まれる。